

めざす姿

## スポーツが心の豊かさを稼ぐ<sup>1</sup>まち 大阪

～ いっしょにするで!! みんなでスポーツ～

目標

スポーツ実施率 65%  
(週に1回以上、運動・スポーツをする成人の割合)

### <方針1>

#### スポーツによる健康増進

～ 身体活動量を稼ぐ～

いつまでも、元気で健康に生活するためには、理想的な身体活動量を確保する必要があります。  
そこで、それぞれのライフスタイルにおいて不足する身体活動量を明らかにし、その不足分をスポーツや運動の実施により補う(稼ぐ)ことにより、健康増進、ひいては、医療費の

### <方針2>

#### スポーツによる都市魅力の向上

～ スポーツ参画人口を稼ぐ～

大規模競技大会等の開催やプロスポーツチーム等のスポーツ観戦といったスポーツをみる機会、ボランティア等のスポーツをささえる機会を提供し、スポーツに関わる人口を増加させる(稼ぐ)など、スポーツによる都市魅力の向上につなげます。

### <方針3>

#### スポーツによる地域・経済活性化

～ ソーシャル・キャピタル<sup>2</sup>を稼ぐ・  
スポーツ産業で稼ぐ～

地域のつながりが希薄になるなかで、ソーシャル・キャピタルは、人が生活を送るうえで、非常に重要です。  
スポーツをすることで、地域社会とつながり、社会参加のきっかけづくりとします。  
また、スポーツ産業で市場を拡大させる(稼ぐ)ことにより、経済の活性化に貢献します。

### <基本視点・施策の方向性>

#### あらゆる世代で スポーツ参画人口を拡大

誰もが生涯にわたって日常的にスポーツに親しみ、楽しむためには、それぞれのライフスタイルに応じた多様なスポーツ施策を展開することが重要です。

そのために、いつでも、どこでも、だれとでも、気軽に、スポーツを楽しむことができる場づくり、さらにはボランティアとしてスポーツと関わるなど多様な機会を提供できるよう取り組みます。

気軽にできるスポーツ機会の創出

- ライフスタイルに応じてスポーツの楽しさを実感できるための取り組みの推進 など

#### ゴールデン・スポーツイヤーズ<sup>3</sup>を 契機としたスポーツ機運の醸成

3年連続で国際的な大規模競技大会が開催される期間を好機と捉え、市民が夢と希望を抱き、感動することにより、スポーツへの関心を高めることができる機会の実現に努めます。

特に、ワールドマスターズゲームズ2021関西については、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の「みる」スポーツから「する」スポーツへのきっかけとなるよう取り組みます。

- 国際的な大規模競技大会等の積極的な招致・開催、レガシーの創出
- 機運醸成、レガシー創出のための施策の展開 など

#### スポーツによる地域活性化・ 地域の一体感の醸成

スポーツには、お互いを知り、交流を深めるきっかけとなるだけでなく、地域での役割やコミュニティを形成する効果があります。

こうした効果を活用し、スポーツを通じて、地域でともに暮らす仲間との触れ合いやコミュニケーションを楽しみ地域社会への参加のきっかけが得られ、地域での交流が深まるよう取り組みます。

地域におけるスポーツの活性化

- スポーツ推進委員の資質向上
- 総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団などへの活動支援
- プロスポーツチームと連携した地域の活性化 など

#### スポーツによる 健康寿命の延伸

スポーツ・運動をすることによって、健康寿命を延伸することは、市民が心身ともに健康で豊かな生活を送ることができるだけでなく、医療費の抑制にもつながります。

そこで、健康増進のために必要な身体活動量の確保という観点に着目し、市民がそれぞれのライフスタイルにおいて、健康で過ごすために必要なスポーツ・運動を習慣化できるよう取り組みます。

スポーツを通じた健康長寿社会等の創生

- スポーツ・運動による健康増進に取り組む企業等への応援 など

#### スポーツを通じた国際交流・ 人材育成・発掘

グローバル化が進展するなか、世界で活躍するプロスポーツ選手やトップアスリートとの交流により、次代を担う世代が夢と希望を抱けるよう取り組みます。

また、国際的な大規模競技大会の開催を契機に次代を担う人材が活躍するきっかけづくりとなるよう取り組みます。

オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進

- ホストタウンの取り組み
- スポーツボランティアの育成、支援 など

#### スポーツによる 経済の活性化

スポーツを産業面で捉えると、スポーツ用品、ツーリズム、スポーツ観戦による飲食や物販など、周辺産業をはじめ様々な産業分野との融合を通じて、波及効果を生み出す可能性を有しています。

そこで、スポーツの価値を広く捉え、スポーツ参画人口の拡大を通じて、スポーツ施設の新たな活用や他産業との連携などのスポーツ産業の発展、ひいては、地域経済の活性化に取り組みます。

スポーツ産業の発展

- 舞洲の活性化に向けたプロスポーツチームとの新事業開拓 など

1 稼ぐ:「稼ぐ」とは、「暮らしのために、精を出して働く(動く)」ということを意味します。

2 ソーシャル・キャピタル:地域における人と人とのコミュニケーションやネットワークのことを意味する社会経済学の用語。

3 ゴールデン・スポーツイヤーズ:2019年のラグビーワールドカップ2019、2020年の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、2021年のワールドマスターズゲームズ2021関西という3年連続で国際的な大規模競技大会が開催される期間のこと。

# 大阪市スポーツ振興計画(抜粋)

## 第4章 スポーツ施策の事業展開

### 障がい者のスポーツ推進

障がい者にとってスポーツは、障がい者の社会参加や自立の促進、生きがいづくりにとても重要であり、機能回復や健康増進のみならず、スポーツに親しむ習慣や意欲を養うことが必要です。また、障がいの有無にかかわらず、一緒にスポーツ・運動を行うことは、地域社会において障がい者スポーツへの理解を広めることにつながり、ノーマライゼーションの理念や誰もが生涯にわたってスポーツ・運動に親しむ社会の実現を図るうえでも大変重要です。

日本で初めて建設された長居障がい者スポーツセンターや、宿泊施設を備えた舞洲障がい者スポーツセンター(アミティ舞洲)等において、障がい者スポーツ教室の開催、クラブ活動の支援、地域でスポーツ活動を行える基盤づくり、指導者の育成を行い、障がい者スポーツの普及・振興及び発展に取り組んでいます。

スポーツ部においても、パラリンピック大会等の盛り上がりを契機に、障がい者のスポーツ活動への参加をより一層促進するため、福祉局及び関係団体等と連携し、障がい者がスポーツをする機会や場の創出を促進する取組みを支援するとともに、パラリンピアン等による「夢・授業」を通じた障がい者スポーツの理解・促進に努めます。さらに、障がい者はもちろん幼児から高齢者まで、障がいのある人もない人も誰もが一緒に気軽にスポーツに親しみ楽しめる機会づくりや環境づくりを推進します。また、地域スポーツセンター等において、障がいの状況等に応じて指導・支援することができる指導者の養成及び配置などの整備も重要であり、スポーツ団体等を活用した取組み及び指導者養成のための研修機会の充実に努めます。